

## 角膜細胞注入 安全確認

角膜内皮が傷つき視力が低下する「水疱性角膜症」の患者の目に、他人の角膜内皮細胞を注入して再生させる治療の臨床研究について、京都府立医大の木下茂教授らの研究チームは、11人の患者で安全性と有効性を確認したと発表した。臨床研究を続け、約3年後の薬事承認を目指す。論文が15日、米医学誌「ニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディスン」に掲載された。水疱性角膜症は、外傷や病気などにより角膜が濁る病気で、国内に約1万人の患者がいるとされる。角膜移植が唯一の治療法だが、これまで提供者の少なさや見え方の不安定さ

### 京都府立医大 臨床研究で視力向上

などが課題だった。一方、チームはシャーレで角膜内皮細胞を培養して増やす技術を開発。この細胞を患者の角膜の内側に注射する臨床研究を2013年12月から実施してきた。この結果、2年の経過観察で49〜80歳の患者11人(男性5人、女性6人)について、視力の向上を確認し、感染症や拒絶反応なども起こらなかったという。視力は、手術前の0.03が1.0になった人もいた。チームはこの11人を含めて既に35人の臨床研究を実施しており、今後は治療の実用化を目指し、更に臨床試験(治験)を続ける。

【野口由紀】